

つながりを大切に、多様性のある未来を 北区の新成人が集い懇談会

令和4年度に20歳を迎える皆さんをお祝いする「北区はたちのつどい」が1月8日(日)に北区民センターで開催されます。出席する新成人5人が北区役所に集まり、「北区はたちのつどい」実行委員会の森田謙委員長、前田昌則区長と、生まれ育った北区のことや、将来の目標などを語り合いました。



やぎゆう・ちあき
柳生千晶さん
=豊仁
子どもと遊ぶのが好きで、大学では幼児教育を学んでいます。



ふじた・ゆりな
藤田友莉奈さん
=豊崎
動物が大好き。大学では生物学を専攻しています。



なぎ・りょうと
榎木稜人さん
=済美
趣味はゲーム。プログラマー志望で、専門職大学で学んでいます。



さこう・なつみ
左向夏彩さん
=菅北
ブライダル専門学校に在学中です。ライブに行くのが趣味。



いなば・れん
稲葉 恋さん
=豊崎東
保健体育の教員をめざしています。趣味は映画や音楽鑑賞。

〈新成人へのメッセージ〉

森田 謙「北区はたちのつどい」実行委員会委員長

これからの人生、大きな壁に直面しても諦めなければ必ず道は開けます。人生はいつでもどこからでも変えられることも忘れずにいてください。

前田昌則区長

大阪・関西万博の開かれる2025年には社会人となっている皆さんは、未来を創る世代です。人を笑顔にする活躍を期待しています。

これまでの20年で最大の出来事は?と質問すると、答えはそろって「新型コロナウイルスの流行」。「高校のソフトボール部の引退試合もできませんでした」と藤田さん。榎木さんは「大学に入学しても最初は全てオンライン授業で友だちもつくれなかった」と振り返ります。柳生さんは実習先の保育園で、子どもたちのマスク姿に心を痛めました。

人生最大の出来事はコロナ

「北区民カーニバルは、地域を越えて北区全体で盛り上がりた楽しい」(榎木稜人さん)。「地域のどこを歩いても知り合っているのいいところ」(左向夏彩さん)。「マンション住まいですが、住人同士のコミュニケーションがしっかりあります」(藤田友莉奈さん)。

「人のつながりが北区の魅力」(稲葉恋さん)。「小さい子もお年寄りもみんなが挨拶してくれる」(稲葉恋さん)。「地域のつながりが強く、安心できる居場所があります」(柳生千晶さん)。

北区はたちのつどい

📅 1/8(日) お住まいの地域(中学校区)により、時間帯を2回に分けて開催します。

- 天満・北稜中学校区…13:00~13:30(受付12:15)
- 大淀・豊崎・新豊崎中学校区…15:00~15:30(受付14:15)

📍北区民センター(北区役所隣)

【対象】平成14年4月2日~平成15年4月1日生まれの方

【内容】式典(手話通訳あり)

※入場は対象の方のみ ※自動車のご来場は固くお断りします
※新型コロナウイルスの拡大により、開催を中止又は延期する場合は北区ホームページでお知らせします

📞政策推進課 ☎06-6313-9743 📠06-6362-3821



(左から)森田謙さん、藤田友莉奈さん、榎木稜人さん、柳生千晶さん、左向夏彩さん、稲葉恋さん、前田昌則区長

多様性のある未来へ

未来へ向けて、教員志望の稲葉さんは「IT化が進んでも、コミュニケーションやふれあいを大切にしていきたい」と話します。榎木さんは「デジタル化でコミュニケーションが世界に広がる」と、プラス面に目を向けます。結婚式関係の仕事をめざす左向さんは「同性婚など様々な結婚の形に 대응することが多様な生き方のできる社会にもつながるので」と考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちのSDGs⑯

地球規模の環境問題や社会課題の解決も、まずは一人ひとりの小さな実践の積み重ねから。持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献をめざす大阪・関西万博に向けて、みんなで取り組む「TEAM EXPO 2025」プログラム/共創チャレンジから北区での活動をご紹介します。

Study:大阪関西国際芸術祭



アート力を社会に活かし「国際芸術都市大阪」へ

大阪・関西万博が開催される2025年に予定する「大阪関西国際芸術祭2025」に向けたイベントです。第2回となる今年は1月28日(土)から2月13日(月)まで、グランフロント大阪(大深町)などで作品展示やカンファレンスなどを展開します。芸術祭のテーマは「ソーシャルインパクト」。格差、環境、ジェンダーなどの社会課題やSDGsがアートとして表現され、人々にメッセージを投げ掛けます。

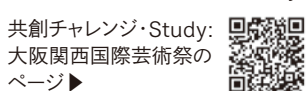
総合プロデューサーの鈴木大輔さんはも元々グラフィックデザイナー。大阪市立大学(現・大阪公立大学)で、アートを多様な人々が共存できる社会づくりに活かす研究に参加したのをきっかけに、2017年に株式会社アートログを設立、アートと社会、経済、政治などを結ぶ様々な企画をプロデュースしてきました。「想像力や創造性を育てる力や、都市の魅力を高める力などアートの豊かな可能性を社会に活かしたい」と話します。

今、大阪には大きな現代アートの祭典がありません。人口10万人当たりの美術館の数は全都道府県の中で最低です。「大阪関西国際芸術祭やアートを成長戦略の起爆剤に、『国際芸術都市大阪』へ」と、鈴木さんは目標を掲げます。

作品を売買するアートフェアも公式プログラムとして2月11日(土祝)・12日(日)にコングレコンベンションセンター(大深町)で開催します。アーティストが作品の対価を得られる環境や、アート関係の仕事や雇用の創出も必要だと鈴木さんは考えています。

大阪・関西万博が追い風となり、産官学とのパートナーシップも広がりつつあります。多様な人々のアイデアで芸術祭をつくるプロセスが「Study」なのです。

共創チャレンジ・Study: 大阪関西国際芸術祭のページ▶



Study:大阪関西国際芸術祭のホームページ▶

昨年のStudy:大阪関西国際芸術祭に展示された淀川テクニクさんの「真庭市のシシ」。家庭ごみを材料に、色彩はSDGsをイメージしたものです(©淀川テクニク)

📞大阪関西国際芸術祭実行委員会 ☎06-6467-8656 ✉info@artlogue.org



総合プロデューサーの鈴木大輔さん

〈目標〉17 パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる《SDGsチャレンジ》現代アートに触れて未来を考えてみよう



大阪の灯り文化を次世代に継承したい



(左)6代目の河合清司さん、(右)弟の浩司さん

1858(安政5)年創業の天満にある提灯屋さんです。かつて限界で盛んに生産されていた上方提灯の伝統工法を守り継ぎ、地域の華やぎに欠かせない提灯を生み出してきました。

6代目の河合清司さんは、「大学の卒業旅行で訪れたヨーロッパで、日本がテーマの旅行雑誌を何気なく手に取ったところ、どの風景にも必ず提灯が写っていたんです。灯り文化を守らねばと強く思いました」と話します。大学卒業後、弟の浩司さんとともに家業を継ぎ、職人の道を行ってきました。

江戸末期に普及した上方提灯は、竹を一本ずつ輪にして骨組みを作る「地張(ちばり)」と呼ばれる工法が特徴です。全て手作業のため時間も時間も掛かりますが、お祭りにふさわしい丈夫で大きな提灯を作ることができます。大阪天満宮や天満天神繁昌亭のほか、近年は飲食店やイベントなどの提灯も手掛けています。

「普段、提灯に馴染みのない人でも、なぜか親しみを抱く不思議な魅力がある」と浩司さん。祭事やお店の灯りにとどまらず、LED電球を使った手のひらサイズのミニ提灯も考案。好きな文字や模様を入れて持ち帰りができる体験教室などの開催も検討中です。若い世代や海外の人に灯り文化の温もりを伝えるため、創意工夫を重ねています。「もうひとつの願いは天神祭の船渡御(ふなとぎよ)復活。次の夏こそ、うちの大きな提灯で地域を明るくしたいです」(清司さん)

提灯舗かわい (天満3-4-9)

提灯舗かわいの Instagram▶



取材当日は今宮戎神社の十日戎に向けた提灯を製作中でした

夢・キタ・ひと ⑨

提灯舗かわい 河合清司さん・浩司さん

北区の魅力は? 大川とともに栄えた歴史